

P2-001

専門職の連携促進 保育士と看護師の関わり
の視点から

勝又 すみれ

全国保育園保健師看護師連絡会

【目的】子育て支援室におけるフィールドワーク参与観察より、保育士と看護師の支援の特性を明らかにし、保育所における専門職の連携促進の示唆を得る。

【方法】子育て支援室の保育士 3 名看護師 1 名を対象にエスノグラフィー参与観察を行い、親子支援の様子を観察し、内容をフィールドノートに記録した。佐藤拓代 (2019) 「我が国の専門職等の視点・アセスメント・関係性・指導」に従い関係性と指導のコードを抽出し、分析した。子育て支援室の職員から親子に紹介してもらい、母親から許可を得て、参与観察者の立場をとった。

【成績】保育士は、一時預かり保育 7 コードから【声掛け・見守り・気分転換・説明】、親子ひろば 3 コード【聴きだす・褒める・見守る】が抽出され、看護師は、救命救急講習 3 コード【提示・適切に答える・経験させる】が抽出された。保育士の関わりは、子へ遊びの提案と共感、親へ情報の共有で連帯感を持ち心の安定へ働きかけ、親子の安心に繋げていた。保育士の視点は、受け入れる関係性を重視し、指導の立場の発言は小さく「説明・聴きだす」であった。看護師の関わりは、意見交換、質問に答え、訓練の実施を促していた。看護師の視点は指導を目的とし「提示・適切に答える・経験させる」であった。

【結論】支援の特徴は、保育士は関係性を大切にし、看護師は正確な指導であった。保育指針で求める看護師の専門性発揮は、医療的視点を持ち対象者の立場でアセスメントを繰り返し指導すると捉えるが、母親にうまく伝わらない事がある。現場の保護者は保育士にも看護師にも受け入れる対応を求める。看護師は保護者と同じ位置でアセスメント指導する時、保護者が否定的感情にならない受け入れの対応が大切になる。関係性とアセスメントを同等にする姿勢は、医療専門職の中で看護師だけと佐藤は示す。チーム医療の連携・協働は、仕事の重なりを持ちながらも専門性を発揮することが重要と吾妻は述べている。保育士の受け入れ対応の強みを認識し関係性を大切にする事は、指導の効果をあげ、専門職連携の鍵にもなると考えられる。佐藤拓代 (2019.12.17. シンポジウム) 表「我が国の専門職等の視点」 保育士：アセスメント<指導<関係性。看護師：アセスメント=関係性<指導。文献 吾妻知美 (2014) チーム医療を実践している看護師が感じる連携・協働の困惑

P2-002

大阪府小児救急電話相談 (# 8000) に寄せられる新生児についての相談内容

宮下 佳代子¹⁾、的場 仁美^{1,2)}、林 文子^{1,3)}、阿部 榮子¹⁾、福井 聖子¹⁾NPO 法人小児救急医療サポートネットワーク¹⁾、
ユニケア訪問看護ステーション²⁾、
奈良学園大学³⁾

【背景・目的】2018 年度大阪府 # 8000 には 58,694 件 (1 日平均 160.8 件) の相談が寄せられ、新生児に関する相談は 772 件 (4.6%) である。新生児期の相談は育児相談に分類される内容が主で、相談件数は 2017 年度 81 件、2018 年度 155 件と倍増している。そこで新生児についての相談内容を分析し、保護者の不安の要因を明らかにし、より有用な電話相談となるよう対応する相談員のスキル向上を検討することを目的に本研究を実施した。

【研究方法】2018 年度大阪府小児救急電話相談 # 8000 への新生児の育児相談の内容について音声データ (148 件) を週数別に分析した。

【倫理的配慮】相談内容の録音については大阪府 # 8000 事業を紹介する「大阪府保健医療室医療対策課」Web ページで提示されている。データの使用は大阪府小児救急電話相談運営委員会の承認を得るとともに NPO 法人小児救急医療サポートネットワークの HP 上でオプトアウトを実施した。

【結果】生後 1 週までの新生児の相談内容は「37.5 度前後の体温」「呼吸が変ではないか」、生後 2 週では「首を反らして抱っこしてしまった」「ずっと寝ている」「ミルクの量」、生後 3 週では「ミルクを噴水状に吐いた」、生後 4 週では「おなかが張っている」との相談が多かった。相談員は夜間救急への受診の必要性の判断について返答することが多いが、新生児帯下など新生児期特有の知識や噴水状の嘔吐のワードから懸念される幽門狭窄を想定した情報の確認と対話が不十分であった。

【考察】新生児を養育する保護者は、日々変化する子どもの様子に異常ではないかと戸惑いながら自身の育児に不安をもち # 8000 へ相談している。# 8000 事業の認知が広がり活用に繋がっていることは、育児不安から情緒不安定や育児放棄 (虐待) に陥る保護者を救う手立てとなりうる。しかし # 8000 事業を利用する保護者のニーズは、適切な受診と育児支援と幅広く、新生児期の子どもをもつ保護者の困りごとや不安に十分に寄り添い対応するには専門的な知識と時間が必要である。大阪府 # 8000 では電話相談員の研修会に新生児期についての講義を開催するとともに小児救急電話相談テキストの改定を検討している。また # 8000 事業だけでなく、出産した産院や助産師会とも連携し新生児期の育児相談に対応できるような体制となることが望ましい。